

記念講演 「二階堂行壽氏」むなしさを開く道を「より」(一部抜粋)

ご和讃に「本願力に会いぬれば、むなく過ぐる人ぞなき」という一節があります。本当の本物の確かなものに出あったとき、むなしさにも悲しみにも意味のないことはないと感じかされます。私たちは願いが掛けられている、そのことに気づいてほしいとこの和讃は教えてくれます。

私たちの言葉はすべて動詞です。どういうことかという「梅干し」(これは名詞です)と聞くと唾が出る。「手紙」(これも名詞)と聞くと心が動く。

「浄土真宗」とは親鸞聖人が法然上人の教えを表した名詞です。がこれは「答え」であり「呼びかけ」であり「問いかけ」であり「応え」であります。

「浄土こそ真の拠り所ですよ」(答え)

「浄土を真の拠り所としなさい」(呼びかけ)

「何を真の拠り所として生きているのですか」(問いかけ)

「なるほど、浄土を真の拠り所として生きよう」(応え)

「南無阿弥陀仏」もまた、心を揺り動かす動詞です。

「阿弥陀仏に南無します」(答え)

「阿弥陀仏に南無せよ」(呼びかけ)

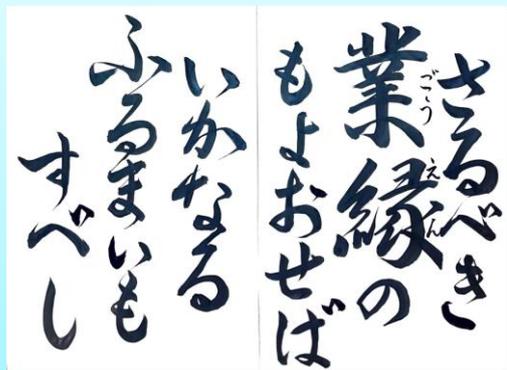
「阿弥陀仏に南無するのか」(問いかけ)

「阿弥陀仏に南無せん」(応え)

「念仏者たれ」(呼びかけ) 「念仏者たらん」(応え) も呼応です。

今回、立教開宗八百年を迎えますが、立教開宗とは、今言った世界に親鸞聖人が出あつてくださったということ。経験が長い浅いは関係ありません。真宗では「聞法せよ」という呼びかけがあります。仏弟子となる真宗門徒には「声」を聞いて歩む者になっていこうという応えがあります。あなたはどんな声を聞いて歩いていきますか。自分勝手な声ではありませんか。そう問いかけられる身に答え、応えて歩んでいきましよう。

今月のことば



親鸞さんの言葉。「そのような縁がはたらけば、どんな振る舞いもしてしまう」という意味です。私たちは心に思う通りではなく、縁(状況や環境)に左右されていく。そんな右往左往する心を見つめ、縁をととのえていく大切さを感じます。

七月公開同朋会

七月九日(第二十曜日)

時間 午後一時から三時まで

場所 徳泉寺 本堂

内容 勤行 法話

住職 「三つのもどり」

前任職 「仏弟子の誕生」

七月は公開同朋会。今回は「お待ち受け大会」を受けて住職・前任職がお話しをします。「仏教って何だろう? 真宗ってどんな教え?」今までお話しを聞いたことがない方も、お久しぶりの方も、この機会に真宗の教えに触れてみませんか。お待ちしております。

朗読 in 徳泉寺

劇団ふたり

7月27日(水) 13:30-15:00

演目 いつペンさん 他

女性二人のリーディングユニット「劇団ふたり」の朗読パフォーマンスです。

住職は御文拝読、坊守は絵本朗読で参加予定。ぜひお出掛けください。

『徳泉寺報』後記 気温が高く季節がひと月くらい前倒しているような暑いです。自分に優しくお過ごしください。